

9年連続第二種電気工事士『全員合格』を達成して

富山県立砺波工業高等学校 教諭 加藤 正

1 はじめに

本校は昭和37年に単独の工業高校として開校され、現在は1学年が機械科2クラス、電気科1クラス、電子科1クラスの日全日制高校である。

2 本校での以前の取組

第二種電気工事士は国家資格で、社会人も受験するため年間10万人以上が受験している。合格率は40～50%程度である。(参考：一般財団法人電気技術者試験センター試験実施状況)

本校に限らず受験する生徒はもう少しというところで不合格になることが多い。また卒業後に必要となり仕事をしながら受験することになったが、なかなか試験に合格できず苦勞しているという話はよく耳にする。そのため約10年前に『全員合格』を目指し指導したところ、達成することができた。朝と放課後に補習を行い、受験者全員で寄せ書きを書いて『全員合格』のムード作りなども行った。このとき先輩たちが『全員合格』したことで、いい意味で後輩への励みとなっている。

3 生徒の取組

本校の生徒は勉強が苦手な生徒が多く、一つ何かを覚えるのにも苦勞しており、さらになかなか定着しない。そこで毎日のように朝・放課後の時間を利用して試験対策に取り組んだ。技能試験での失敗も多いため、練習するときはなるべく本番の環境に近い形で行い、完成品を電気科の全職員で点検し可否を判定した。部活動の大会の時期と重なることもあり放課後に勉強に取り組めない生徒もいる。学校での学習時間が確保できるかどうかは本校の生徒にとっての合格への生命線である。そのため平日や休日の部活動の後や部活動が休みの日にも学校での勉強の機会を設けた。

生徒の頑張りに対して教員側でも工夫している。過去問題等に何度も取り組むため、採点にマ-

クシートとエクセルを活用し、解答用紙を集めた数分後には全員の結果を把握できるようにした。誰がどの問題を間違えたか確認できるため、生徒が自己分析したり個別に指導したりする際に役に立った。

何よりも周りの教員や保護者の協力が欠かせない。合格点に届かない生徒は補習をしないとイケないが、試合等が近ければなかなか部活動を休むことができないため顧問との調整が必要になる。休日補習となれば保護者に弁当を用意してもらったり送迎してもらったりすることが必要となる。教員や保護者の協力を得て、学校全体で取り組むことができなければ『全員合格』はできなかった。

周囲の理解と協力を得ることで昨年度は1年生(現2年生)が一発で全員合格を果たし、8月には3年生が全員合格したことで9年連続全員合格を達成することができた。現在、1年生が全員合格を目指して頑張っている。



生徒の喜びの姿

4 まとめ

『全員合格』が続いたおかげで電気科に入学してくる生徒は、この資格は必ず合格しなければならないと理解している。また毎年新聞で大きく報道されており、地域の人や企業の方からは好評を得ている。生徒の合格したい気持ちが一番大切であり、その気持ちがある限り継続していけるのではないかと思っている。